

2019年「日本ITU協会賞」受賞

2019年5月17日に開催された「第51回世界情報社会・電気通信日のつどい」において、無線アクセス開発部の河原 敏朗とネットワーク部（一般社団法人電波産業会に出向中）の加藤 康博が日本ITU協会賞「功績賞」を、R&D戦略部の石井 美波、ネットワーク開発部の久野 友也と村上 雅英、元5Gイノベーション推進室の武田 一樹が日本ITU協会賞「奨励賞」を受賞しました。日本ITU協会賞は、電気通信／ICTと放送分野に関する国際標準化や国際協力の諸活動において、これまでに優れた功績を遂げられた者並びに今後の貢献が期待される者に贈呈されるものです。なかでも、功績賞は、世界情報社会サミットにおける基本宣言および行動計画の実現および国際標準化、国際協力に関するITUなどの活動または我が国のITUなどに関連する諸活動に貢献し、その他情報通信および放送の発展に寄与し、その功績が著しい者に贈られます。また、奨励賞は、功績賞に該当する諸活動にすでに参加し、今後これらの領域において継続して寄与することが期待される者に贈られます。

河原は、移動通信におけるマルチメディア通信の実現のため、ITU-Tにおいてマルチメディア通信プロトコルの移動通信拡張標準化、ならびにMPEG-4における誤り耐性映像・音響符号化の標準化に積極的に寄与し、また3GPP（3rd Generation Partnership Project）ではLTE標準化および実用化、新規の移動通信プロトコル標準化団体O-RAN（Open Radio Access Network）の立上げに貢献するなどの功績が認められ、功績賞を受賞しました。

加藤は、ITU-R WP5D（Working Party 5D）/APT（Asia-Pacific Telecommunity）会合などに、日本代表団として電波利用の産業界を代表する立場で参加し、主にIMT（International Mobile Telecommunication）に関する各種勧告などの策定やWP5Dの第三地域（APT地域）ラポータとしてAPT各国の連携の推進に寄与するとともに、3GPPのマネジメント活動に継続的に関与し、5G方式の名称の国内合意形成などで貢献した功績が認められ、功績賞を受賞しました。

石井は、2016年から日本代表団の一員としてITU-R WP5Dの全7会合に参加し、IMT-2000など

に関するITU-R勧告・レポートの策定、改訂の促進および日本提案の勧告・レポートへの反映に貢献したことで、今後、ITU-R以外の会合でも国際標準化活動への貢献が期待され、奨励賞を受賞しました。

久野は、オペレーションシステムやネットワーク仮想化（NFV：Network Functions Virtualization）システムの商用開発経験や知識を活かし、実運用を考慮したマルチベンダNFVシステム構成でのI/F議論を推進し、I/F仕様の早期締結の実現、相互接続性確認を容易に実施するためのテスト仕様の議論推進に貢献したことで、将来、本標準化I/Fに準拠したNFVシステムによる商用網構築が加速すると期待され、奨励賞受賞となりました。

村上は、GSMA（Global System for Mobile communications Association）においてVoLTEローミング方式に関わるドキュメント改版およびIP相互接続に関するドキュメント策定を主導し、世界に先行してVoLTEローミングを運用した際に発生した接続性の問題を積極的に提示するなど、ドキュメントの質の向上に貢献したことで、今後の移動通信技術の国際標準化活動への貢献が期待され、奨励賞を受賞しました。

武田は、3GPPにおいて、5Gの根幹ともいえる物理レイヤ制御チャネルの仕様策定リーダーを務め、商用要望を考慮した5Gの標準仕様化に大きく貢献するとともに、5G標準仕様エディタを務め、5G物理レイヤ要素技術の取纏めに寄与することで、今後のモバイル技術・産業の発展に貢献することが期待され、奨励賞を受賞しました。



（左上から）河原，加藤，石井，久野，村上